

新宿区子ども読書活動推進会議

### コロナ禍やGIGAスクール構想等による 子ども読書活動の変化等について



2021年12月15日  
小川 三和子

### 1 子どもの生活の場は、子どもの読書の場

- (1) 家庭
- (2) 幼稚園・保育園
- (3) 学校
- (4) 学童クラブ・学習塾
- (5) その他

### 2 学校での読書

- ・学校教育は、法律や学習指導要領に基づいた教育課程により行われている
- ・読書は、教育課程内での指導事項になっている
- ・読書指導により、個人の読書生活がより充実する
- ・学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備

### 3 学校図書館は、教育設備(施設)

#### 学校教育法施行規則

#### 第一章 第一条

学校には、その学校の目的を実現するために必要な校地、校舎、校具、運動場、図書館又は図書室、保健室その他の設備を設けなければならない。

#### 学校図書館法

第一条 この法律は、学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もつて学校教育を充実することを目的とする。  
第三条 学校には、学校図書館を設けなければならない。

### 学校図書館法

(定義)

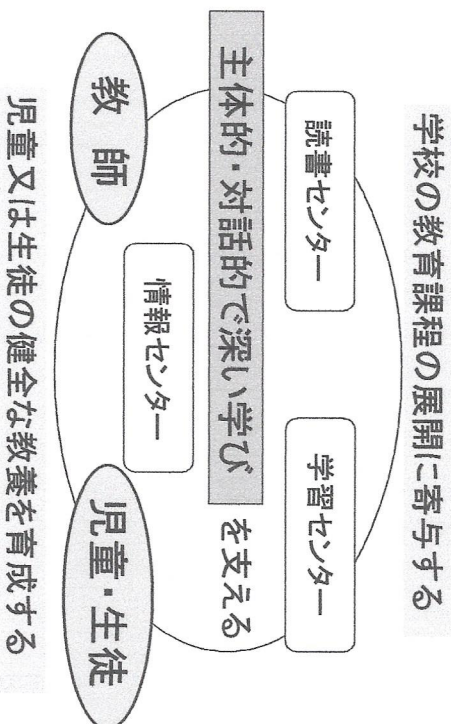
#### 第二条

この法律において「学校図書館」とは、小学校(特別支援学校の小学部を含む。)、中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。 )及び高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)(以下「学校」という。 )において、図書、視聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料(以下「図書館資料」という。 )を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備をいう。

### 3つの機能（「学校図書館ガイドライン」より）

- ・児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」
- ・児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」
- ・児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」

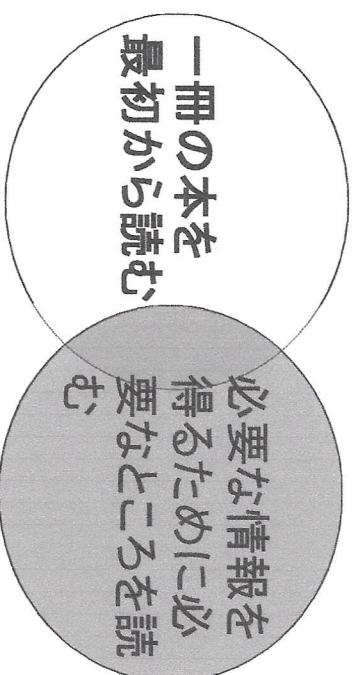
### 学校図書館は…

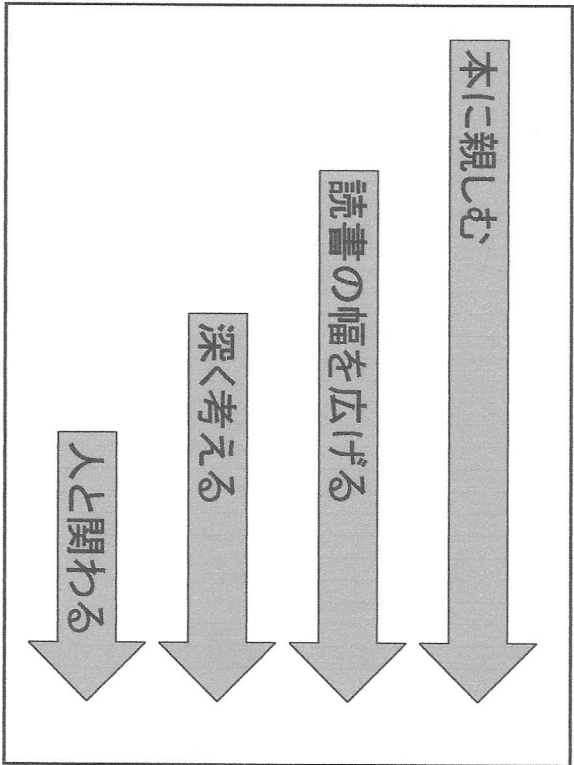


### 4 読書センターとして

- (1) 学校教育においては、読書は、指導事項  
 ・学校教育法 第2章義務教育第21条「義務教育として行われる普通教育は、…次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。」  
 「五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。」
- (2) 「ここでいう読書とは、文学作品を読むことに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞・雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだりすることなども含めたものである」  
 （「これからの時代に求められる国語力について」  
 平成16年2月3日文化審議会）

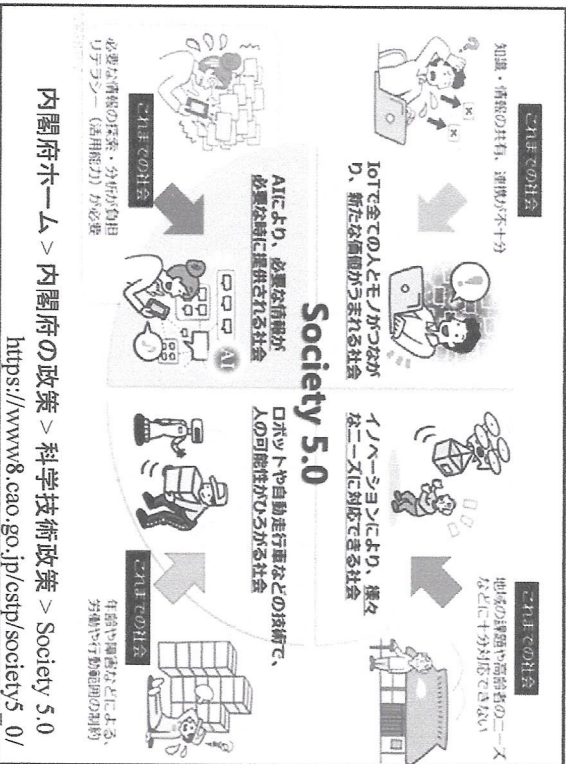
## 読書





6 情報センターとして  
 ～Society 5.0とGIGAスクール構想～  
 (1) Society 5.0とは  
 サイバー空間(仮想空間)とデジタル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)  
 狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会

5 学習センターとして  
 学習指導要領総則 第3 教育課程の実施と学習評価  
 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
 各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。  
 (2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としてつづつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。  
 (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。  
 (小学校・中学校・高等学校・特別支援学校とも)



## 2. Society 5.0に向けて取り組むべき政策の方向性

（新たな人材を基盤に生きる力の育成に関する省庁タスクフォースにおける議題の整理）

＜取り組みの方向性＞

＜取次・担当事＞

【「Society 5.0」の目的】

- ・「社会的な学力を基盤に定着させながら、他者との協働しつつ自らを高める」ことを目指すこと

【中・高専】

- ・OECD PISA で高い得点水準を維持
- ・他方で、高度な知識・情報技術の進化のなかで、文書や情報の知識を基盤とし、思考する能力に基盤としての知識・技能の補強を断ち切り、すべての子供に「Society 5.0」時代に求められる基礎的な力を確実に習得させる必要がある

【高等学校】

- ・普通科7型（80万人）・専門学科等3型（30万人）・普通科5型（50万人）といたった総数が約70万人
- ・多くの生徒は中学卒業以降、文系・理系に分かれ、特定の教育について8～10年に学習しない期間がある
- ・教育に求められる多様な学び（高等教育機関の卒業等）の必要性

【高等学校卒業から社会人】

- ・四年制大学は、人・社会5型（80万人）、理工系2型（12万人）、保健系1型、経済・芸術系等2型
- ・短期大学は、理工系1型、フリースクール・短期大学3型
- ・教育におけるSTEAMやデジタル思考の重要性

（平成30年6月5日 Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省庁タスクフォース 文科省）  
[https://www.mext.go.jp/component\\_a\\_menu/otherdetail/\\_icsFiles/afile/2018/06/06/1409844\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component_a_menu/otherdetail/_icsFiles/afile/2018/06/06/1409844_001.pdf)

Ⅰ 「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供

Ⅱ 基礎的読解力、数学的思考力などの基礎的な学力の育成と活用能力をすべての児童生徒が得

Ⅲ 文理分断からの脱却

### 学びへの活用 ICTの「学び」への活用

“学び”でも“どの教科でも”“誰でも”使えるICT

検索サイトを活用した調べ学習

- ・一人一人の得意不得意、強み、得意
- ・「たのしみ」の要素を教材にプラスし、主体的に調べ学習を行う

「一斉学習」の場面の活用

「1人1台」を活用して、教科の学びをつなぐ、社会課題の解決に生かす。

ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育

※ Science, Technology, Engineering, Art, Mathematicsの各教科の学びを統合し、主体的に探究する

探究のシロセア

探究のプロセス

課題の設定	実社会の問題状況に関する課題、進路や教科等、横断的な課題などを設定
情報の収集	文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実践、フィールドワーク等
整理・分析	統計による分析、思考ツール、チャートやインフォグラフィック等
まとめ・表現	論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、報告等

2021.6.13 [https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syo001-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syo001-000003278_1.pdf)

## (2) GIGAスクール構想

「Global and Innovation Gateway for All」  
 「全ての人にグローバルで革新的な入口を」  
 文部科学省「(リ)ーネット」GIGAスクール構想の実現へ」より

### GIGAスクール構想

「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」

「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

学習活動の一層の充実

## (3) 情報センサーとしての機能と探究的な学習

→情報活用能力の育成

- ① 探究のプロセスを学ぶ
- ② 課題を設定する力の育成
- ③ 多様な情報源を効果的に活用する

図書資料・新聞・雑誌・ファイル資料  
 インターネット情報・デジタル情報  
 見学・体験・インタビュー・実験 等

- ④ 収集した情報を読み解き・評価・選択・整理する
- ⑤ 収集した情報を元に考察し、自分の考えをもつ
- ⑥ 情報発信のためにまとめる

レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方  
 多様な情報発信

## 7 コロナ禍での読書

## (1) 出版販売状況(2020年)

- ・紙と電子を合算した出版市場  
1兆5,432億円→1兆6,168億円
  - ・書籍 6,723億円→6,661億円
  - ・雑誌 5,637億円→5,576億円
  - ・電子 3,072億円→3,931億円
  - ・コミックスが支えている状況
  - ・電子コミックス 21.2%
  - ・紙コミックス 11.6%
  - ・学習参考書や児童書...底堅い
- 出版科学研究所「日本の出版販売額」  
<https://shuppankagaku.com/statistics/japan/>

## (2) コロナ禍の学校図書館

- ・図書資料の利用減
- ・学校図書館の利用制限
  - ・3密を避ける
  - ・本の消毒の有無の議論
- (3) withコロナでの学校図書館
  - ・手洗い、換気、マスク等で基本は変わらず
- (4) オンラインでの予約
  - ・書架の前にも立ってほしい
- (5) 電子図書館と学校図書館
  - ・栃木県矢板市、熱海市、熊本市等で導入
  - ・市(区)での契約、学校も利用している

## 8 コロナ禍やGIGAスクール構想等による子ども読書活動の課題と展望

- (1) 読む力は、普遍的に必要  
→長文を読む力、論理的に考える力
- (2) 文学のもつ力、文化の継承
- (3) 発達段階に応じた指導・支援
  - (3) 紙メディアの評価
    - ・紙の本...信頼性、装丁、構成、目を通す、実体
    - ・紙の新聞...紙面全体をながめる
    - ・多様な情報が目に入る
  - ・紙の雑誌...情報を得る以外の効果  
写真・癒やし・質感
- (4) 多様な情報源を効果的に活用できる力の育成

## 9 今後も

- ・ICTも紙の本も使いこなせる児童生徒の育成
- ・教員も、読書、新聞購読を
- ・学校図書館・図書館も書店も電子図書館も活用
- ・子ども達と本との出会いの場を大切に
- ・幼稚園、保育園、学校で発達段階に応じた読書指導を